

WE THINGS

GOOD MANNERS DOG TRAINING

第八章

おいで

おいでの取り組み

おいで

「おいで！」と犬に呼びかけ、その犬が楽しそうに飼い主の元に駆け寄ってくる姿は犬と暮らしていない人から見ても、きっと素敵な光景に映るでしょう。

そして実際にパートナーである犬と暮らしている私もそんな光景に憧れますし、実際に来てくれた時の喜びは何度味わってもたまらない気持ちになります。

ちょっと周りにギャラリーがいたりすると、「おいで」の光景を見て欲しいとすら思ってしまうくらいの特別な合図ですよね。

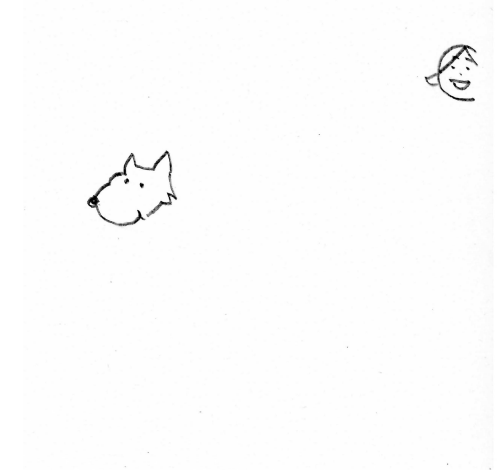
ところが、これまでの私の人生で「おいで」と言ったら、明らかに聞こえているはずなのに、

聞こえないフリをする…

人の手が届かないギリギリの位置まで来て止まる…

と憧れの姿からは到底遠い状況を経験しました。

当時はすごくがっかりしましたし、「こんなに大好きなのに、なんできてくれないの…」と悩んだりもしました。



改めて考えてみると、「おいで」という合図は本当に日常の中にたくさん使う場面があるかと思います。

お家の中で、お散歩中、動物病院、ドッグカフェ…様々なシーンで使いますよね。

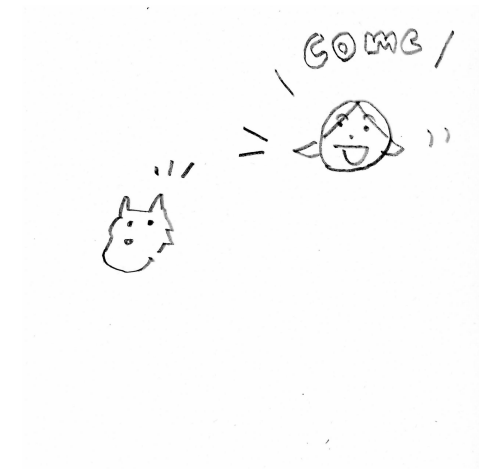
さらにもっと細かく、どんな時に「おいで」を使っているか考えてみます。

- ただただかわいくてナデナデしたいと思って
  - おやつをあげようと思って
  - おもちゃで一緒に遊ぼうと思って
  - お散歩に行こうと思って
  - ブラッシングしようと思って
  - ツメを切ろうと思って
  - イケナイ事をしたので叱ろうと思って
  - 近くでじっとして欲しいと思って
- etc...

と、あげただけでもたくさんの理由がありますが、もっともっと色々な状況で使いますよね。

しかし犬たちは、人間側の「ナデナデしたい」といったような「おいで」を言う理由はわからないはずです。

「おいで」を言われたら自分の身に何が起きるのかを瞬時に考えているのかもしれませんが。



飼い主の様子や手に持っているものなどで「もしかして…」と思う事はあるかもしれませんが、確信ではないでしょう。

ただ、「おいで」といわれた後の経験から学習しているはずですよ。

「おいで」の言葉の後に自分にとって<良いこと>があれば「おいで」の言葉は<良い合図>と関連付けます。

ということは、自分にとって<嫌な事>があれば<嫌な合図>として関連付けるということですね。

つまり、「おいで」の後に嫌な事が繰り返されていけば次第に「おいで」は嫌な事を予告する合図となり、聞こえてても聞こえないフリをして嫌な事を回避しようとしているのだと考えられます。

そこで、できるだけ「おいで」の印象を良くする取り組みの一つをご紹介します。

### おいでの取り組み

\*流れ

- ①「おいで」の合図を言う
- ②そばに来てくれたら褒める言葉を言う
- ③おやつをあげるまたは一緒に遊んだあと、許可の合図を言う

これを繰り返します。



しばらく続けて「おいで」のイメージが良い方向へと変わってきたらそこから発展し応用となりますが、まずは基本が大事なので、「おいで」の良いイメージが付くような取り組みをする事をおすすめします。

#### POINT

##### <練習方法>

パートナーが皆さんの声に比較的反応がある環境で練習を行ってください。お家の中など集中しやすい環境で行う事をおすすめします。

また、この取り組みの期間中は、「おいで」の後に犬が嫌だなど思う事はやらないように意識してみてください。

まずは「おいで」のイメージを変える事が先決だからです。

##### <褒めるについて>

「そう、それ合ってるよ！」などの意味を込めて「いいこ」「good」や「nice」という言葉を使い、パートナーがとった行動に対して返事をしている様な感覚で使用する事を<褒める>としています。



※ご案内※

このe-Bookの内容はあくまでも一例であり、かいつまんだ内容でもあります。  
実際のマンツーマン講座では、個々の状況や状態で別の方法をご提案することもあります。

ご不明な点や、うまくいかないような所も含め、詳しくは実際のコースにてご案内しておりますので、  
こちらのe-Bookについては参考程度にお楽しみください。